

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ともだちと はなして、おはなしを かこう」 教材名「どんな おはなしが できるかな」

2 単元の目標

- (1) 句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使う。文の中における主語と述語との関係に気付く。（〔知識及び技能〕(1)ウ・力）
- (2) 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ（話すこと・聞くこと A(1)オ）。文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける（書くこと B(1)オ）。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（第1学年及び第2学年の目標(3)）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ②文の中における主語と述語との関係に気付いている。（(1)力）	①「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） ②「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（B(1)オ）	①進んで、友達の話を受けて話し、学習の見通しをもって、友達と話したことを基にお話を書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、友達と登場人物の動物になったつもりで話し、その話を基に会話の入ったお話を書いて読み合う、話すこと・聞くことと書くことを組み合わせた単元である。二人で一つのお話を考える時、相手の言ったことを受けないと話が先へ進まないの、学習指導要領第1学年及び第2学年のA(1)オの、相手の発言を受けて話す力を、子どもが必要として使う場になる。話したことをお話に書く時には、登場人物が話したことをかぎ（「 」）で書くので、〔知識及び技能〕(1)ウの句読点やかぎの使い方を、実際の文章の中で使える。書いたお話を読み合う活動は、B(1)オ「文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること」に当たる。光村図書の教科書では、第1学年の前半に、好きなことを友達に話して文に書いたり、あったことを文章に書いたりする単元がある。第2学年では、絵を基に想像を広げ、事柄の順序に沿って構成を考えてお話を書く学習へ進む。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、話がつながる姿を言葉にして示す。相手の話を受けずに自分の話を続ける見本と、相手の話を受けてつなぐ見本を先生が見せ、違いを子どもに言わせてから話させる（A(1)オ）。次に、話したことは絵と短い言葉でメモに残させ、書く時間の材料にする。話すことと書くことの間に時間が空いても、メモを見れば話したことを思い出せるようにする。そして、書く時は、動物が話したことをかぎで書くことと、「だれが」「どうした」がそろっているかを、声に出して読み返して確かめさせる（(1)ウ・カ）。書いたお話は、会話の文がかぎで書かれ、相手の話を受けた会話が続いている物を「おおむね満足できる」状況、会話の間に動物のしたこと文が入り、場面の様子が分かる物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教科書の絵を見て、どんな動物がいて、何をしたいそうかを話し合う。 ○学習課題「ともだちと はなして、どうぶつの おはなしをつくろう」と、進め方を確かめる。	態①（発言）
第2次	2	○お話に出す動物を選び、どこで、何をするお話にするかをペアで決める。 ○先生の見本を見て、話がつながる言い方を確かめる。	
	3 （本 時）	○ペアで役を決め、動物になったつもりで話す。相手の言ったことを受けて話を続ける。 ○話したことを絵と短い言葉でメモする。	思①（行動観察・メモ）
第3次	4	○メモを見て、話したことを基にお話を書く。動物が話したことはかぎ（「 」）を使って書く。	知①（ノート）
	5	○書いたお話を声に出して読み返し、句読点やかぎ、「だれが」「どうした」を確かめて書き直す。	知②（ノート） 態①（見直し）
	6	○書いたお話を読み合い、内容や言葉でいいなと思ったところを伝え合う。 ○自分のお話のよいところを見付けて書く。学習を振り返る。	思②（付箋・振り返り） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (3/6)

(1) 本時の目標

動物になったつもりで友達と話し、相手の言ったことに関心をもって、それを受けて返し、話を続けることができる。(A(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に決めた動物と、お話の場所を確かめる。 2 先生の見本を二つ見て、比べる。 ○「二つの話で、つながっていたのはどちらでしょう。どこでつながっていましたか」 【めあて】ともだちのはなしを うけて、はなしを つなごう。 〈予想される児童の反応〉 ・「それで、どうしたの」と聞いていた。 ・相手が言ったことを、もう一度言ってから話していた。 ・自分のことばかり言うと、お話にならない。	・見本は、相手の話を受けずに自分の話を続ける物と、相手の話を受けてつなぐ物の二つ。先生と、前もって頼んでおいた子どもで見せる。 ・つなぐ時の言い方(「それで」「そうなんだ。それなら」「どうして」)を短冊にして黒板に貼る。
展開 (分)	3 ペアで役を決め、動物になったつもりで話す。 ○「相手の言ったことを受けて、次の話をしましょう」 4 話したことを、絵と短い言葉でメモする。 5 別のペアと聞き合い、話がつながっていたところを伝える。 ○「友達のペアの話で、つながっていたところはどこでしたか」 6 もう一度ペアで話し、つなぎ方を工夫する。 〈予想される児童の反応〉 ・「おなががすいたね」「それなら、いっしょに木の実をさがそう」 ・「どこへ行くの」「森の向こうへ行くんだよ」 ・相手の話を聞かずに、自分の思いついたことを言う。 ・何を言えばいいか分からず、だまってしまう。	・話す前に、相手の顔を見て、最後まで聞くことを確かめる。 ・言葉が出ない子には、つなぐ言い方の短冊を指して選ばせる。先生が相手役になって、やりとりを一回だけ一緒にする。 ・相手の話を受けずに話す子には、「今、相手は何と言ったかな」と聞き、相手の言葉を一度くり返してから話させる。 ・メモは字にこだわらず、絵と短い言葉でよいことにする。 ・ペアの組み方は学級の実態に合わせ、話すのが苦手な子は聞き返すのが得意な子と組ませる。 ・動物の絵は教科書の絵を使うので、先生が教科書から用意する。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 話がつながった時に使った言い方を出し合う。 【まとめ】ともだちのはなしを よく きいて、「それで」「どうして」と うけると、はなしが つながる。 8 振り返りを話したり書いたりする。	・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。 ・振り返りは「つなぐときにつかったことば」と「ともだちのはなしでおもしろかったところ」の二つ。書くのが難しい子は先生に話して伝える形でもよい。 ・次時は、話したことを基にお話を書くことを伝える。メモは次時まで先生が預かる。 ◎思①（行動観察・メモ）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて（ひらがな、分かち書き）。その左に二つの見本の会話を吹き出しで並べ、つながっている所を線で結ぶ。中央につなぐ時の言い方の短冊。その左に、子どもが見付けたつなぎ方と、ペアの話の例を矢印でつないで書く。左端にまとめ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

